

「一陣の風の如く」

レポート・2023.11.29・繁野玖美・作業療法士

早瀬久美様

早瀬様は疾風の如く走り去った。アスリートだ。後に残ったのは、お会いできてよかった（画面越しではあるが）という満足感だった。

今日、私の心に残った言葉はたくさんある。そのひとつは、「知る、気づくだけでは不十分、行動すること、それを継続することが大事だ」ということだ。行動するためには勇気がいる。しかし、行動しないと、いつまで経ってもこれから起こるかもしれない事態を予測したり、想像することを学べないのだと思う。

また、三段階の支援についても勉強になった。ひとつは、誰もが理解しやすい、使いやすい環境作り。これには固定観念を捨てて、その環境が誰に役立つか想像するトレーニングが必要だ。今日は実際にそのトレーニングをして頂いた。今後自分なりにこの視点を強化していきたいと思った。

次に、障害特性を理解してきちんと支援すること。三つ目に個人的なニーズに合わせても支援すること。この二つに関しては、作業療法士として常に気をつけている点でもあった。しかし、平時ではない時、環境が変わった時に、この視点を的確に持てるかは自分に問い直す必要があると感じた。

そして、デフリンピックのこと。聞いたことはあったが、2年後に日本で開催されることは知らなかった。正直を言えば、興味を持っていなかった。今日、お話を聞いて何らかの形でかかわっていききたいと思った。デフリンピックは決して聴覚障害者だけのものではなく、みんなに何かをもたらすことのできるイベントだと思うからだ。

早瀬様の溢れ出るバイタリティに圧倒された90分だった。坂口元厚労相から薬剤師免許の交付を受けている新聞記事に「『聞こえない薬剤師』ではなく一人の人間として、聞こえないことを個性としていろいろなことに挑戦していきたい」という言葉があった。「一人の人間として」というフレーズに、人格の深さを感じた。そして、私も頑張らなくっちゃ！とエールを送ってもらった気分になった。繁野玖美